

ご挨拶

独立行政法人国立女性教育会館女性アーカイブセンターは、男女共同参画社会の形成に顕著な業績を残した女性や女性教育・女性施策等に関する過去の記録の収集・整理・保存・提供に取り組むとともに、さまざまな分野で「チャレンジした女性たち」を紹介する企画展示をシリーズで開催しております。



平成23年度に開催した「化学と歩む」からは、パイオニアのみならず、現在活躍する方々も紹介する「チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ」として、内容を更に発展・充実させてまいりました。

シリーズ10回目となる今回は、「鉄道と女性展 鉄道を動かし、社会を動かす」と題して、鉄道で働く女性たちの歴史を戦前から現代までたどるとともに、現在活躍している女性鉄道員、鉄道を学ぶ女子学生などを紹介します。

男性の職場というイメージが残る鉄道業界ですが、戦前から多くの場で活躍していた女性、そして、今まさに活躍の場を広げている女性たちの実践の軌跡から、男女共同参画社会の形成をより推進するためのヒントを見つけていただければ幸いです。

最後になりますが、本展開催にあたり、貴重な資料の利用やインタビューについてご快諾いただきました方々にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

平成30年9月

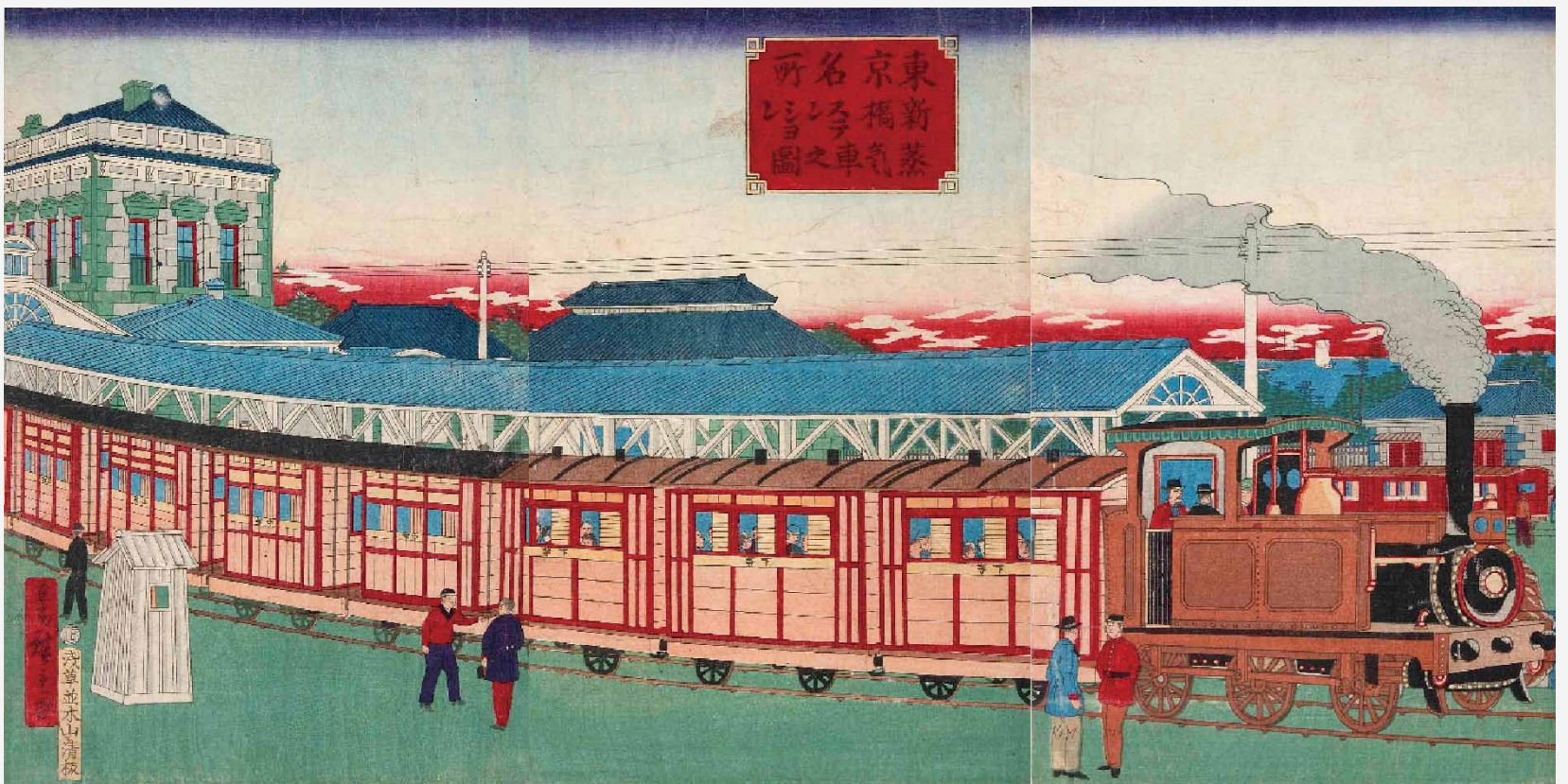
独立行政法人国立女性教育会館
理事長 内海 房子

明治・大正の女性鉄道員あれこれ ～鉄道のはじまり～

日本で最初の鉄道は、明治5(1872)年に新橋～横浜間で開通しました。開業式は、明治天皇も訪れ、新橋、横浜の停車場で盛大に行われました。

女性鉄道員はそれから30年後に登場します。まず明治35(1902)年に、讃岐鉄道で喫茶室の給仕として女性乗務員が採用されました。つぎに、明治36(1903)年に国鉄の出札窓口として10代の女性が採用されました。その後大正4(1915)年には高野鉄道・芦原町駅で初めての女性駅長が、大正7(1918)年の美濃鉄道で初の女性車掌が登場しました。

いずれも当時は鉄道で働く女性はめずらしく、新聞などで報道されました。



開業当時の新橋停車場（現・旧新橋停車場）を描いた浮世絵
歌川広重（三代）「[東京名所新橋ステーション蒸気車之図]」（東京都立中央図書館所蔵）

戦時中の女性鉄道員

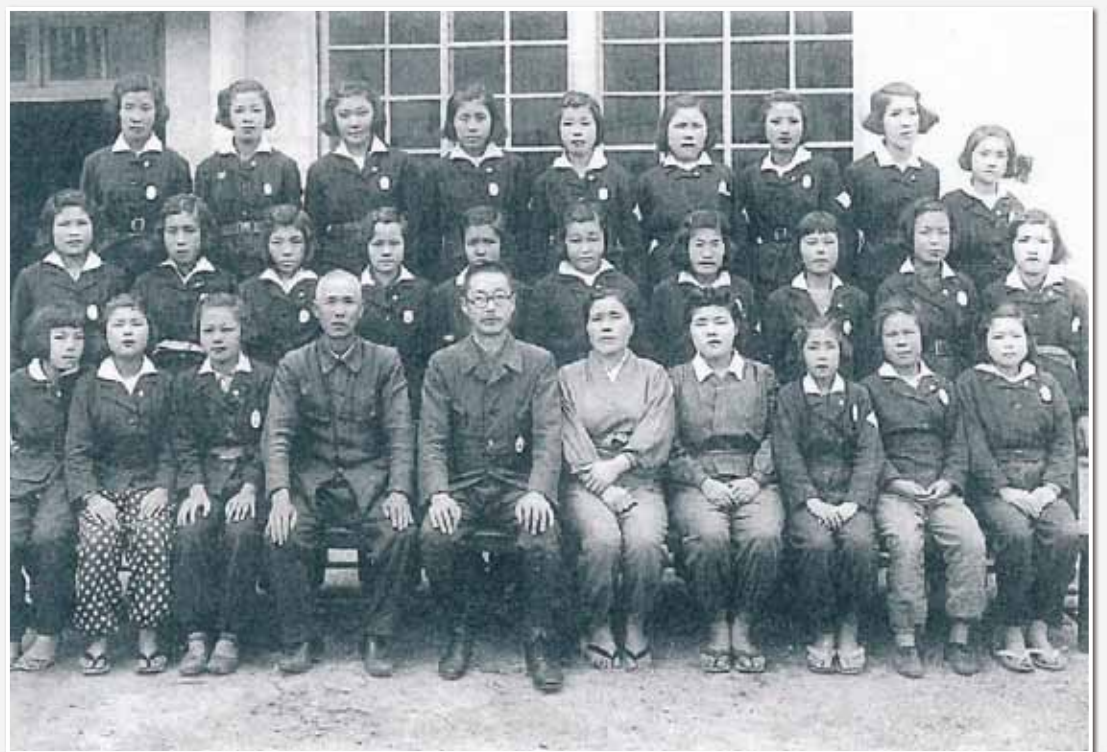
第二次世界大戦のため男性が出征し、その補充要員として女性鉄道員が雇用され、女子学生も勤労奉仕として鉄道員の役目を担いました。昭和11(1936)年に8119人、全体の3.6%であった国鉄の女性職員数は昭和20(1945)年7月には12万2737人まで増え、国鉄職員全体の24.2%を占めました。

昭和19(1944)年8月には、東京初の女性運転士が京成電車に登場し、営団地下鉄、西武鉄道、東武鉄道などでも女性運転士が働いていました。

広島県では、鉄道業務に携わりながら女学校レベルの勉強ができる広島電鉄家政女学校が開校され、14～16歳の少女たちが在籍し、車掌業務や路面電車の運転を行いました。被爆3日後に一部区間で復旧した路面電車を運転した女学生もいました。



戦時中の東武鉄道女性鉄道員
写真提供：東武博物館

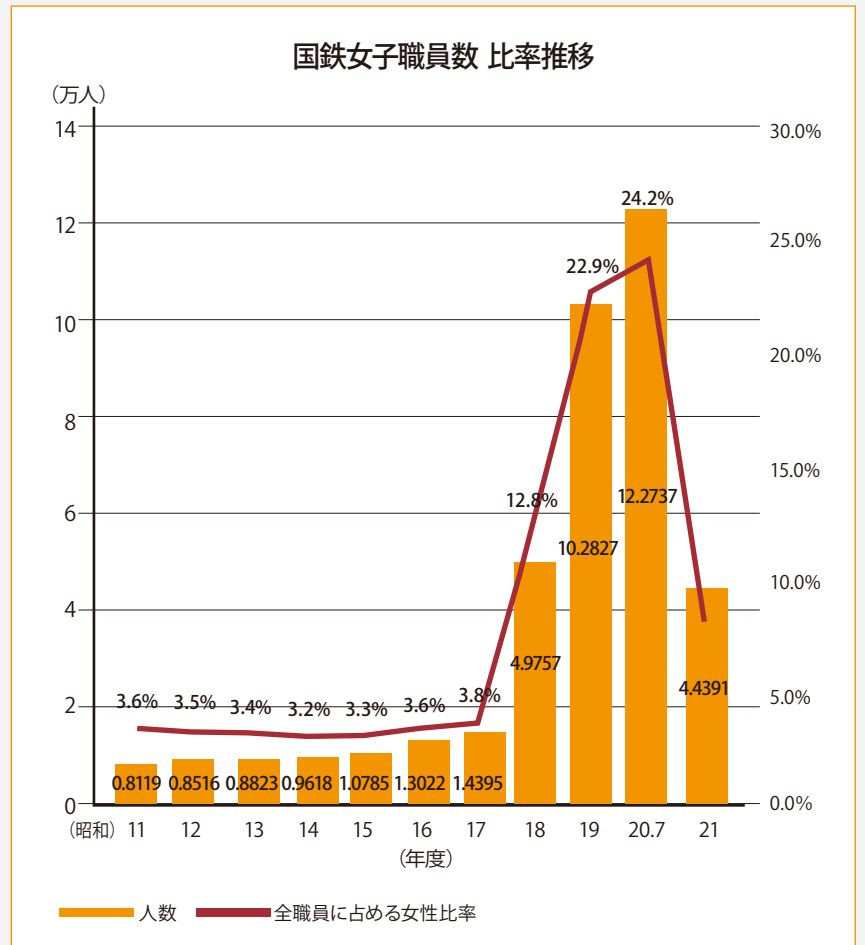


広島電鉄家政女学校集合写真
写真提供：笹口里子氏

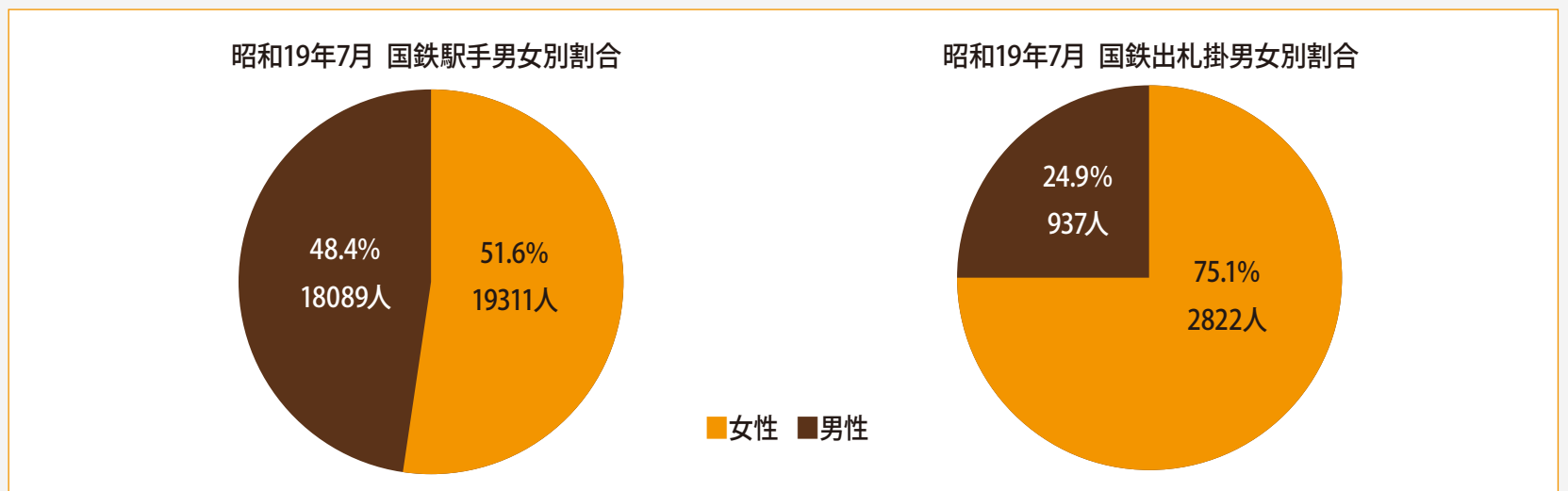
グラフで見る戦時中の女性鉄道員

戦時中の鉄道における女性動員を国鉄のグラフで見ると、昭和18(1943)年から最も女性職員数が多くなった終戦間近の昭和20(1945)年まで急速に女性職員数が増えていることが分かります。

職種別に見ると、女性割合が高いのは出札掛、駅手です。



とくに駅手は19,311人と人数が多く、昭和19(1944)年の女性職員数102,827人の約2割を占める人数が働いていました。



しかし、戦中時に急速に増えた女性鉄道員は、グラフから分かるように、終戦後職場から減っていきます。昭和21(1946)年10月には現業関係での女性の新採用は2名であるのに対し、退職は1,337名であった、という記録が残っています。

戦後の女性鉄道員

戦時中働いていた女性鉄道員たちは戦後、男性らの復員により解雇・退職などで減っていきました。昭和22(1947)年には労働基準法が制定され、女性の深夜業が禁止されました。このことも女性の働き方を制限することとなりました。

そのような中で、女性たちはどのように働いていたのでしょうか。

昭和24(1949)年には戦後初の特急「へいわ」が東京～大阪間で運行を開始し、昭和25(1950)年には「つばめ」へ改称、また「はと」も加わり、それぞれ車内アテンダント「つばめガール」「はとガール」として女性が採用されました。

また、国鉄労働組合婦人部の調査によれば、昭和30(1955)年には女性職員12,477名のうち、最も多いのは「電話掛」で4,475名(35.9%)、次いで「看護婦」2,157名(17.3%)でした。



電話交換を行う女性・昭和30年代頃
(鉄道博物館所蔵)



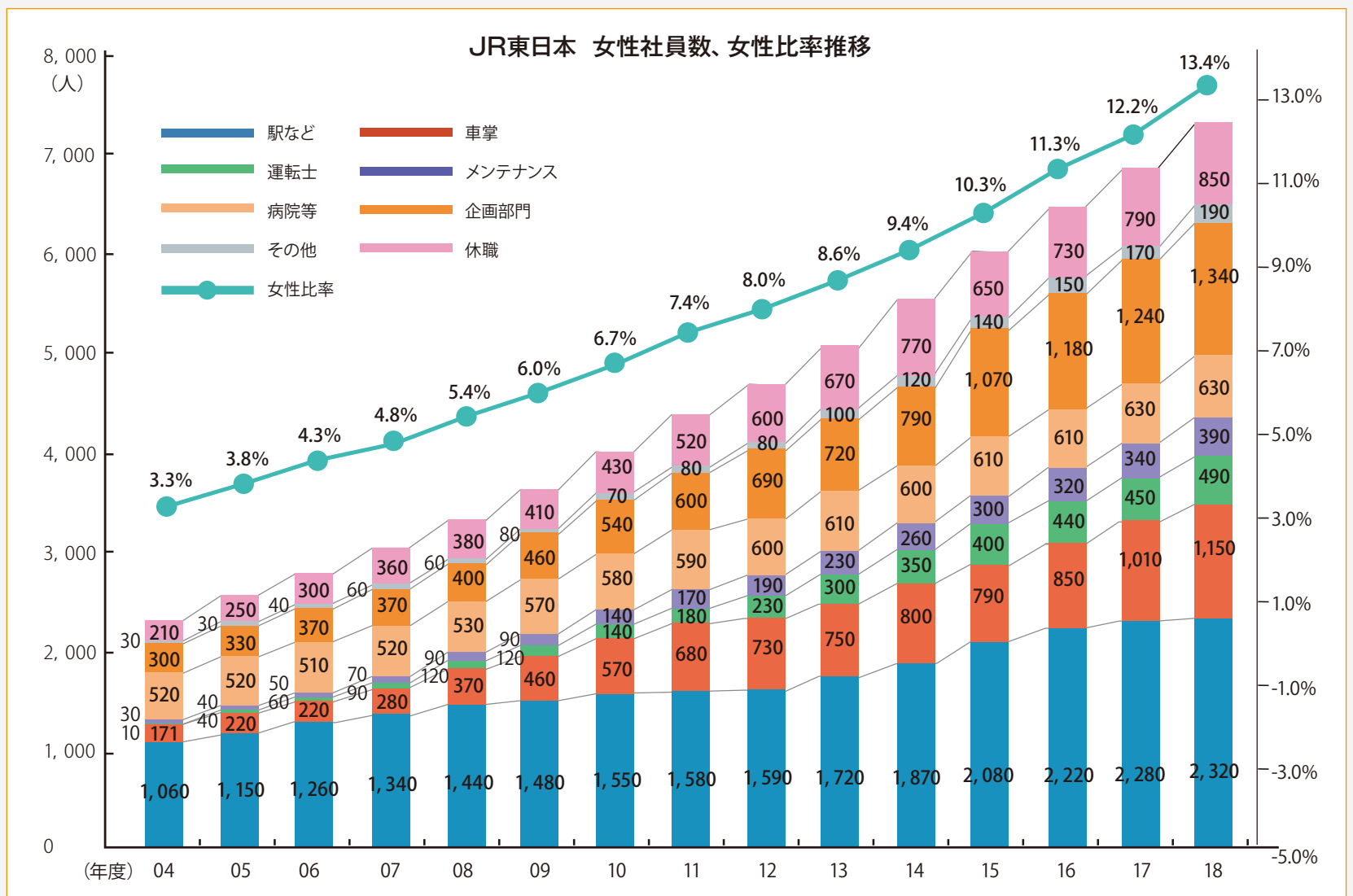
能登半島定期観光バスに乗務する女性・昭和34年
(鉄道博物館所蔵)

各地で女性初！ ～男女雇用機会均等法、労働基準法改正～

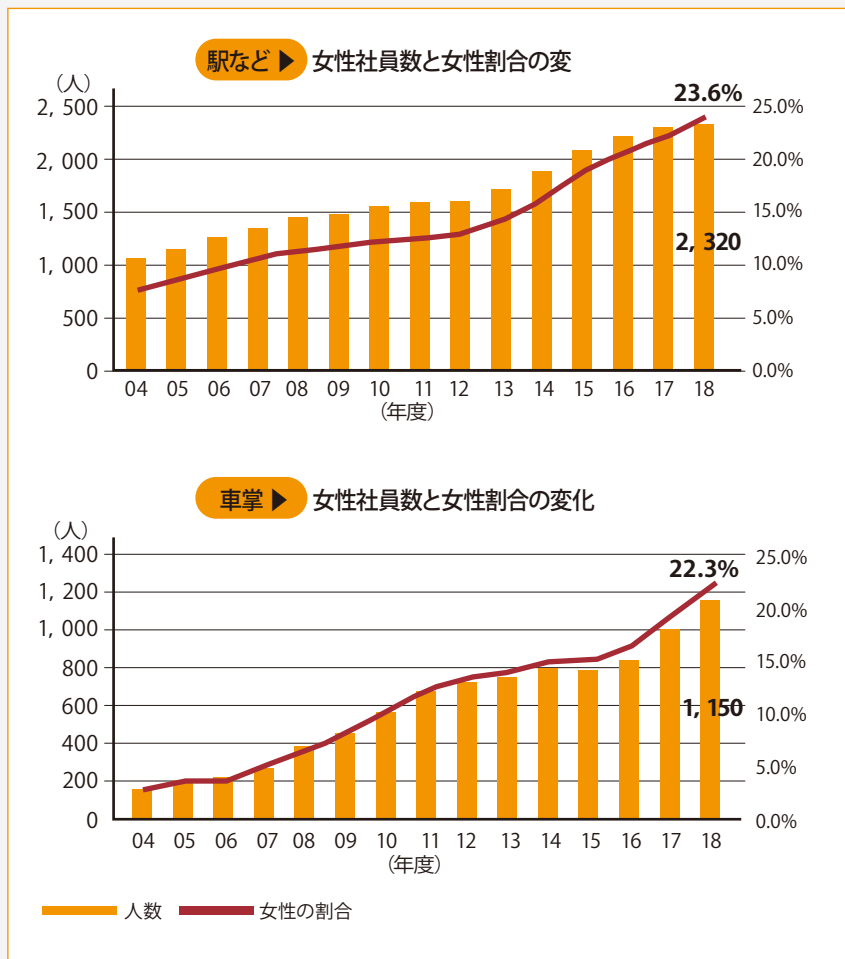
昭和22(1947)年以降深夜業が禁止・制限されていた女性たちですが、平成に入ると徐々に女性運転士、車掌が登場します。平成2(1990)年には、秋田内陸縦貫鉄道で戦後初の女性運転士が登場しました。その後各地で女性運転士の登場が続きました。

平成11(1999)年には、男女雇用機会均等法改正にともなう労働基準法改正により、女性の深夜業制限が完全に撤廃され、女性の職域が広がりました。

※女性鉄道員全体で見ると、JR東日本では全社員に占める女子の割合は、昭和62(1987)年には0.8%でしたが、その後年々増えていき、平成30(2018)年には、13.4%になりました。そのなかで駅など、車掌、運転士、メンテナンスに従事する女性は59.1%になっています。



グラフで見る女性の職域拡大 ～JR東日本の事例から～

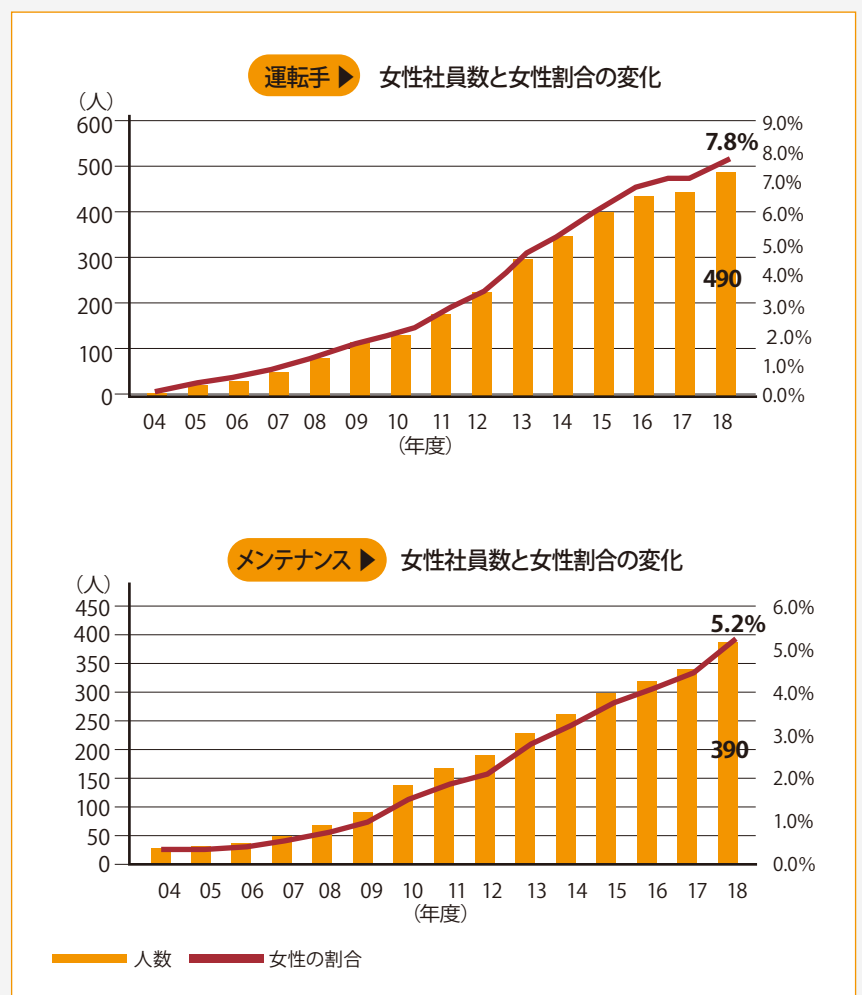


職種ごとに女性社員数と女性割合
の変化を見てみましょう。

駅などで働く女性や、車掌として働く女性は、平成16(2004)年には10%に満たなかったものの、平成30(2018)年には4、5人にひとりが女性となるまでに増えています。とくに、女性車掌は170人から1,150人へと大きく増えました。

運転士やメンテナンスとして働く女性たちも、平成16(2004)年時点ではそれぞれ10人、30人しかいなかったものの、その後どんどん増えてきています。

今はまだ10%に満たない女性割合ですが、今後、運転士やメンテナンスとして活躍する女性もさらに増えていくでしょう。



鉄道と女性 年表

和 暦	西 暦	日 付	出来事	法 律
明治5年			日本初の鉄道運転開始	
明治35年	1902		讃岐鉄道（現予讃線）で日本初の女性乗務員を採用列車の給仕係として	
明治36年	1903		女子鉄道出札係が登場（新橋駅）	
大正4年	1915		高野鉄道（現南海電鉄高野線）で日本初の女性駅長	
大正7年	1918		美濃電気軌道で日本初の女性車掌採用	
昭和10年	1935		鉄道省が女子車掌を採用	
昭和13年	1938			国家総動員法
昭和14年	1939		熊本電気軌道が女性車掌を正式採用	
昭和18年	1943		男性職員徴用による女性職員採用	
昭和19年	1944	5月15日	熊本電気軌道、車掌がすべて女性に	
		10月10日	熊本電気軌道、女性運転士登場	
昭和20年	1945	5月	東京駅女子高等学校	
		8月20日	女子職員の夜間勤務禁止、代替として男子職員現場採用開始	
	1946			労働組合法
昭和22年	1947	5月5日	婦人子供専用車中央線に試験的に実施	労働基準法
昭和57年	1982		女子職員第1オープンに勤務開始	
昭和59年	1984		女子職員による駅内（全詰所）一斉放送開始	
昭和60年	1985			男女雇用機会均等法
昭和61年	1986		秋田内陸縦貫鉄道(旧国鉄)女性運転手 *S19に熊本電気軌道であり	
平成11年	1999			改正労働基準法による 深夜業規制撤廃
平成14年	2002		銀座線に戦後初の女性運転士	
平成16年	2004	12月	京王線に女性専用車両試験運行	
平成17年	2005	4月4日	埼京線に女性専用車両	
		5月9日	女性専用車両運行開始（首都圏11社）	
平成18年	2006		首都圏鉄道会社「マタニティマーク」配布（首都圏16社）	

参考文献:

浅井建爾『鉄道の歴史がわかる事典：読む・知る・愉しむ』日本実業出版(2004)
沢和哉『日本鉄道ことはじめ』築地書館(1996)
日外アソシエーツ編集部『日本女性史事典 トピックス1868-2015』日外アソシエーツ(2016)
中村弘之『熊本市電が走る街今昔：城下町の路面電車定点対比』JTBパブリッシング(2005)
『東京駅の100年：1914～2014』ネコ・パブリッシング(2014)
長谷川章, 三宅俊彦, 山口雅人『東京駅歴史探見：古写真と資料で綴る東京駅90年の歩み』JTB(2003)
三島富士夫, 永田博『鉄道と街・東京駅』大正出版(1984)

鉄道を支え、社会を動かす女性たち

～鉄道で働く！ 総合職～

現在鉄道で働いている女性たちは、どのような仕事をしているのでしょうか。一口に鉄道で働く、と言っても様々な職種、働き方があります。今回の展示では、インタビューをした「総合職」「助役」「運転士」「検修係」の仕事について紹介します。

総合職は、鉄道の現場や、鉄道会社グループのサービス全般など幅広い経験を積んで、グループ全体の新しい事業を企画、立案していく仕事です。



駅長時代に、友好協定を締結している台湾鉄道との記念式典に出席

東武鉄道株式会社で総合職として働く原希和子さんは、入社後まず駅に配属になり、そのあと車掌となりました。その後、広報部やグループ会社への出向、そして会社初の女性駅長など様々なキャリアを経験し、現在営業部で特急列車の利用促進やアプリの開発などをされています。

原さんは鉄道会社で総合職として働くことについて、「鉄道は生活に根付いた産業で、その分世の中に対する影響力があることに魅力を感じています。また、色々な職場を経験でき、新しいことにチャレンジできていつも新鮮な気持ちでいられます。」と語っていました。



東武鉄道本社にて
(インタビュー時に撮影)

鉄道を支え、社会を動かす女性たち

～鉄道で働く！ 運転区助役・運転士～

実際に電車が人を乗せて走る現場では、どのような仕事で働く女性たちがいるのでしょうか。JR東日本の伊川奈穂子さんは、さいたま運転区で育成助役として働いています。伊川さんは、駅の窓口業務や大宮支社女性1期生の車掌、運転士を務め、支社では経理の仕事も経験しました。その豊富なキャリアを生かし、現在は委員会での仕事や、後輩からの相談を受け、助言を行っています。伊川さんは「助役として



助役席に座る伊川さん

の責務を感じているけれども、後輩が今後のキャリアを迷ったときに、自分のキャリアを紹介したり、自分が子どもを産んで働いている背中を見せたりすることで後輩の励みにもなると思います。」と語っていました。

東武鉄道の和田恵さんは東武東上線の運転士として働いています。駅員として採用され、車掌になった後、周囲からの勧めがあり、「めったにできない仕事」と思い、運転士へチャレンジ。東武東上線初の女性運転士となりました。また、運転業務の他に主任として、お子様向けに配布する電車カードや業務に役立つ社員向け案内用リーフレットなどを作成しています。

多くのお客様の生活を支えるという大変な仕事ですが、無事に乗務を終了した時の達成感是他では味わうことのできない、とても魅力的な仕事です。



和田さんと運転シミュレーター

鉄道を支え、社会を動かす女性たち

～鉄道で働く！ 検修係～

たくさんの人を乗せて走る電車の安全性は、どのようにして守られているのでしょうか。森林公園検修区で検修係として働く石田萌さんは、検修区で車両のメンテナンスをしています。宿泊勤務を伴う列車検査や、故障した車両の修理のほか、異音感知や車両の不具合など、急なトラブルが起こった際には現場に駆けつけることもあります。



車両の点検作業をする石田さん

石田さんは車両保守担当者として女性で初めて採用されました。「女性が少ないところで活躍する女性はカッコいい!」という憧れがあり、チャレンジしました。男性の多い職場では、自分から積極的にコミュニケーションを取ることを心がけているそうです。

現在の仕事のやりがいについて、「自分が修理した電車がお客様を乗せて走っているのを見ると、また安全に走ることができてよかったと、うれしく思います。」と語っていました。



一緒に働くみなさんと

鉄道を学ぶ、追いかける！

～岩倉高等学校、早稲田大学鉄道研究会～

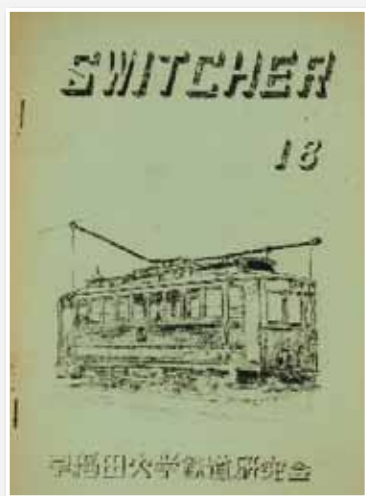
日本には高校生から鉄道に関する授業を選択できる高等学校があります。そのひとつが、上野駅近くにある岩倉高等学校です。

平成26(2014)年から男女共学化し、鉄道について学ぶ運輸科にも女子生徒が在籍しています。運輸科では鉄道に関する授業を履修します。



NWECで合宿中の岩倉高等学校理化部のみなさんにインタビューしました

普通科の生徒も鉄道会社でのインターンに参加することができるそうです。岩倉高等学校理化部に所属する運輸科の女子生徒は、「鉄道の授業は楽しいです。今後は工業系の授業を履修して将来は車掌になりたいです。」と語っていました。



昭和30年代の会誌(右)と現在の会誌(左)
会員がそれぞれの関心に基づき記事を執筆しています

鉄道を愛するファンの人たちもいます。そのようなグループの一つとして、高校の部活や大学の鉄道研究会が上げられます。早稲田大学鉄道研究会は、昭和27(1952)年に設立され、20年以上前から女性の会員も参加しています。現在活動中の女性会員の方は、「女性会員が少ないと聞き、入会を少し躊躇したけれども、同じ趣味を持つ仲間同士だからこそできる経験もあり、とても楽しい。」と語っていました。